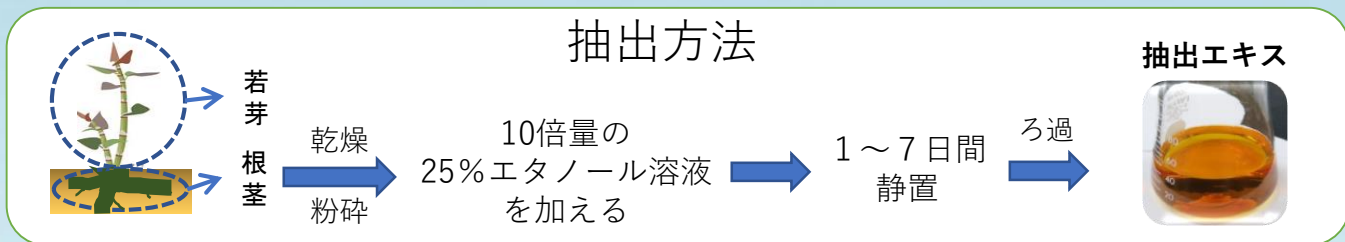


イタドリ根茎の有効利用について

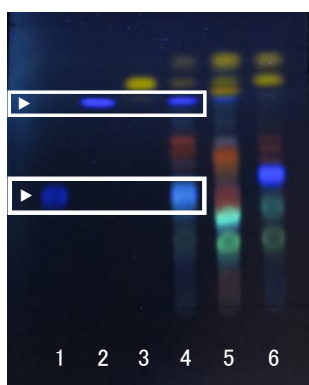
イタドリはタデ科の多年草で、若芽は和歌山県の郷土山菜として食されています。一方、根茎は医薬品として分類されるため、食用利用ができません。

しかし、根茎の抽出エキスは、化粧品原料などに用いられている医薬部外品原料規格に『イタドリエキス』として記載されています。

そこで、和歌山県産のイタドリが規格に適合する簡易的なエキス抽出方法を検討しました。



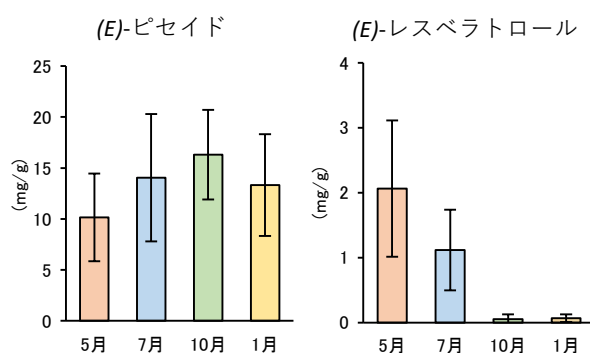
① 指標成分の検討



- 1: (E)-ピセイド
- 2: (E)-レスベラトロール
- 3: エモジン
- 4: イタドリ
- 5: ダイオウ
- 6: ツルドクダミ

(E)-ピセイドと (E)-レスベラトロールはイタドリエキスに特徴的な成分と判明

③ 採取時期による比較

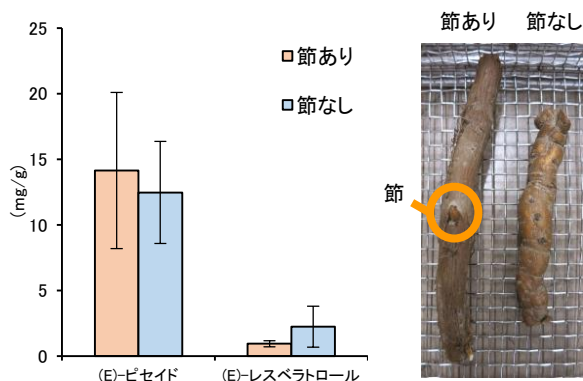


(E)-ピセイド：10月に向けて増加

(E)-レスベラトロール：

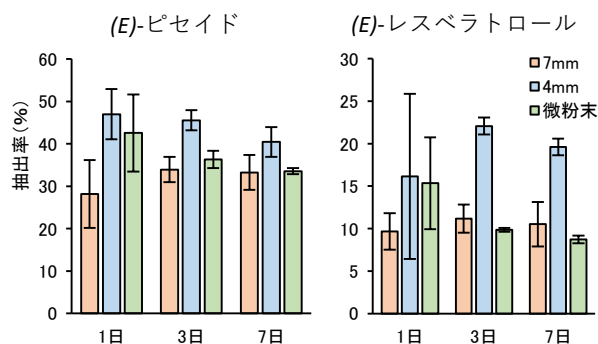
10月及び1月で含有量が著しく減少

② 節の有無による比較



節あり及び節なしの間で差は認められなかった

④ 浸漬時間による比較



(E)-ピセイド：

3日の4mmチップが高い抽出率

(E)-レスベラトロール：

3日、7日の4mmチップが高い抽出率

すべてのエキスが外原規「イタドリエキス」の規格に適合